

TOKYO WOMAN'S  
CHRISTIAN UNIVERSITY  
東京女子大学



現代教養学部 国際社会学科

5.17.Thu. at Zempukuji  
16:35~18:05  
中村 真人 教授



この講義で行うのは、産業と企業の調査研究。企業や自治体を取り組んでいる事柄について、学生自らが取材を行い、社会調査の方法を身につけるのが目的だ。

教室に集まったのは12人の学生。四つのグループに分かれて、それぞれのグループがテーマに沿った調査を進めていく。担当の中村先生からは、調査に関するアドバイスが伝えられた。「前回『調査対象とするインタビュー相手の数はどれくらいがいいか?』という質問がありました。調査には、アン

ケートを中心とした量的調査法と、インタビューを中心とした質的調査法の二つがあります。量的調査法は、アンケートを集計して代表値を出すので、「個性」が消えてしまします。質的調査法は個々の事例を取材していくので、「個性」が浮き彫りに。皆さんが今回進めている質的調査法は、個性を大切にしているので、インタビュー相手の数はそんなに多くなくても結構。協力的な相手からたくさんデータを取ってきてください」

調査テーマは「企業の婚活支援について」  
体当たりでインタビュー!

講義の流れ 学生がグループごとに、テーマに沿って社会調査を進める。

醍醐味

自ら行動して社会団体にインタビューなどの取材をし、社会調査を体験的に学ぶことができる。

協力的な相手から

どんどんデータを集めよう

初めて企業に取材依頼のメール  
敬語の使い方にも細心の注意を!

いよいよ行動開始!

学生たちは調査項目を考えると共に、インタビュー先の企業にアポイントメントを取るのだ。パソコンを前に、全員で企業に送るメールの文面を考える。企業に直にメールを出すのはもちろんはじめての学生がほとんどなので、誤った敬語を使わないように注意を重ねて文面をつくる。「突然メールを差し上げる失礼をお許しください。私は東京女子大学現代教養学部○○○と申します。このたびは、ご連絡させていただいたのは、大学の社会調査実習の授業で、企業における○○○○を研究しており……」

四つのグループのそれぞれの研究テーマは次のようなものだ。一つ目のグループは「SNS(企業)」。SNS(Social Network Service)を使って企業活動を行っている会社を対象に、ITや情報コミュニケーションの普及が企業活動とどういった関係にあるのかを調べる。

二つ目のグループは「企業や地方自治体と婚活」。最近、企業が社員の福利厚生の一環として



「チャイルド・ケア」。働く女性が増えて、子育て支援も、今までの公立保育園や無認可保育所という形態から、多様化してきている。公的サービスと民間サービスではどんな現実があるのか、社会福祉協議会などを通じて調べるというものだ。

三つ目のグループは「在日韓国人の現状」。昔から日本に住んでいる韓国人がいるが、新大久保の 코리아タウンに象徴されるように新しく日本に来た韓国人が大勢いる。日本社会のグローバル化について生きた現実をとらえたい。そのため韓日親善交流会などの団体にインタビューを試みる。

VOICES 学生の声  
of University Students



山田 美穂さん(左)  
現代教養学部 国際社会学科3年  
テーマについて、みんなで意見交換をすることによって、自分の意見を言えるのが楽しいし、他の人の意見を聞くことで視野も広がります。自分のやりたいことをできるゼミです。東京女子大学は少人数制なので、学生と先生との距離が近いところがいいと思います。私は世界各国の文化・言語に興味があるので、将来は旅行に関わるような仕事に就きたいと考えています。

油木 恵さん(右)  
現代教養学部 国際社会学科3年  
このゼミの魅力は、同年代の仲間と共に自分の興味あることについて調査を進めていける点です。普通に生活しているとは焦点をあてないようなテーマを取り上げて、中村先生のサポートのもと、みんなでディスカッションしたりするのが楽しいですね。将来は、労働問題で悩んでいる在日外国人に何か手助けになるような形で働きたいと思っています。

婚活支援をしたり、地方自治体で婚活支援のイベントを企画したりしている。その一方で、昔ながらの結婚紹介のビジネスもある。その現状を調べるのだ。



「このゼミを通じて学んでほしいこと。それは、受け身になって人から知識を受け取るだけでなく、自分の関心に従って自ら行動して知識を集めて経験を積むこと。それを一生の行動力として身につけてほしい。実査(インタビュー)などで『社会はこうなっているんだ』『世の中で人々はこう働いているんだ』と自分の五感でとらえることが大事です。今までのゼミを履修した学生は、必ずといっていいほど『自分の関心のままに好きなことをやっていいのかな』などと思っていたけれど、それで勉強にな

自ら行動し、社会の実態を五感でとらえる  
その体験は一生の力に

資料の請求および  
お問い合わせ先

URL (パソコン用) <http://twcu.ac.jp/>  
(携帯電話用) <http://office.twcu.ac.jp/pr/mobile/>  
e-mail [pr@office.twcu.ac.jp](mailto:pr@office.twcu.ac.jp) TEL:03-5382-6476  
〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 東京女子大学 広報課

東京女子大学

現代教養学部  
人文学科  
国際社会学科  
人間科学科  
数理科学科

〔沿革・歴史〕

1918(大正7)年、東京府豊多摩郡淀橋町字角筈(現在の新宿)を校地に創立。新渡戸稲造学長、安井てつ学監、A.K.ライシャワー常務理事らにより礎が築かれた。1924(大正13)年に校地を現在の場所に移す。1948(昭和23)年学校教育法により新制大学として発足。2009(平成21)年、現代教養学部(人文学科・国際社会学科・人間科学科・数理科学科)を設置(文理学部・現代文化学部を統合・再編)。

〔オープンキャンパス情報〕

7月15日(日)、8月4日(土)、10月7日(日) 10:00~16:00  
12月8日(土) 13:00~16:30  
2013年3月29日(金) 10:00~15:00

<受験生のための授業見学会>

7月16日(祝)、10月1日(月)、10月8日(祝)  
11月13日(火)、11月14日(水)、11月20日(火)  
11月23日(祝)

<高校生のための公開講座>

7月28日(土)、7月29日(日)  
10:00~12:00、13:00~15:00



なかむら まさと  
中村 真人先生

東京女子大学教授。東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得満期退学。社会学修士。専門はグローバル化と産業の社会学。資料収集・観察・測定など現実に直接関わっていくことを重視する実証主義の社会学の立場を取る。著書に「仕事の再構築と労使関係」(御茶の水書房)がある。